5教科・過去問点数管理表 解答解説

架空記入例・合計の確認・分析方法｜人間確認前の試験版

対象教科	5教科
対象単元	学習管理
問題数	1問
目標時間	20分
難易度	基礎～標準
公式確認日	2026-08-05

重要： この表は共通問題の素点を記録するためのものです。令和9年度案内で示される標準的な5教科は100点×5教科=500点ですが、学校・募集区分・傾斜配点等により扱いが異なる場合があります。共通問題と自校作成問題の得点を同じ尺度と決めつけて比較せず、志望校の最新の実施方法を人間が確認してください。令和8年度理科は公式ページの差し替え後の問題・正答表を使ってください。

問題 1

東京都教育委員会が公開する共通問題の過去問を3回分以上解き、各回の国語・数学・英語・社会・理科の素点と5教科計を記録しなさい。次に、初回と最新の教科別の差、誤答の根拠、次回までに行う学習を表にまとめなさい。

正答：個人によって異なる。各回の5教科計が5教科の素点の和と一致し、初回と最新の差が正しく、誤答の根拠に基づく具体的な次の学習行動が書かれていればよい。

考え方・手順

1. 公式の正答表・採点のポイント・訂正情報を確認して各教科を自己採点する。
2. 5教科の素点を足し、0～500点の範囲であることを確認する。
3. 最新得点－初回得点を教科ごとに計算する。
4. 差が小さい教科や最新得点が低い教科の誤答を分類する。
5. 誤答の根拠に対応する次の学習行動を一つ書く。

詳しい解説

合計点だけでは、どの教科・どの誤答原因を直すべきか分かりにくい。教科別の変化と誤答の根拠を並べると、伸びた教科を維持しながら、次に直す範囲を具体化できる。年度間の難易度差もあるため、1回の点数だけで実力を断定せず、複数回の推移と答案の内容を併せて見る。

間違いやすい点

合計の計算違い、訂正前資料での採点、未採点の記述を0点と決めつけること、共通問題と自校作成問題を同じ尺度で単純比較することに注意する。

都立入試ナビ

確認観点

自動採点の正解が一つに決まる課題ではない。5教科得点と合計の整合、初回・最新の差、誤答根拠、具体的な次の行動の4観点を人間が確認する。

架空の記入例

以下の得点は計算方法を確認するための架空例です。実在の受検者の得点ではありません。

回	実施日	過去問年度	国語	数学	英語	社会	理科	5教科計
1	5/10	令和6年度	68	52	61	57	64	302
2	6/14	令和7年度	72	58	65	62	70	327
3	7/19	令和8年度	75	63	67	60	72	337

架空例の計算確認

初回合計：68＋52＋61＋57＋64＝302点

最新合計：75＋63＋67＋60＋72＝337点

合計の変化：337－302＝35点

分析例

・架空例の5教科計は302点→327点→337点で、初回から最新まで35点増えている。

・数学は52点→63点で11点増え、5教科の中で伸びが最も大きい。

・社会は57点→60点で3点増にとどまり、最新回でも5教科中最も低い。点数だけで結論を出さず、誤答を知識不足・資料読み取り・時間不足に分けて根拠を確認する。

・次の行動例は、社会の誤答を大問別に3分類し、1週間後に同じ資料問題を解き直す、である。

人間確認が必要な事項

・令和9年度の志望校別実施方法、共通問題・自校作成問題、傾斜配点の有無

・使用する年度の問題・正答表・採点のポイント・訂正情報が最新版か

・自己採点の妥当性、とくに記述問題の採点

・架空得点例の計算、表現、著作権、A4横向きレイアウト

公式情報確認日：2026-08-05

都立入試ナビ